東京多摩プロバスニュース

第　26　号

■事務局:東京都多摩市鶴牧5－29－10　平田方　　編集・発行:広報委員会

電話・FAX　(042)338-7022　〒206-0034　　2009・09・02

豊かな経験を生かし、多彩なプロバスライフを

◇◇◇　ごあいさつ　◇◇◇

「美しい多摩を次の世代へ」から「豊かな経験を生かし、多彩なプロバスライフを」へ

会長　村上伸茲

前年度は、スローガンに沿って5周年記念事業の一環として「残したい多摩の風景」を市民から募集し、新多摩八景などを選定しました。今年度は、これらの多摩の自然・文化・歴史を子どもたちに引き継ぐために、学童への環境教育の一環として何をしたらよいかを考えたいと思います。

さて、本年度のスローガン:「豊かな経験を生かし、多彩なプロバスライフを」について説明します。最後の述語を省略していますが、ここには各会員の好きな言葉を入れていただくことです。例えば「楽しく愉快に！」とか、「健康で爽やかに！」とか、「明るく前向きに！」などです。「豊かな経験」とは、会員のこれまでの人生経験、すなわち価値観であり、多様な文化であります。人間もそうですが、それぞれの生物も大きな遺伝子プール（個体集団が持つ遺伝子の総体、ヒトの場合はヒト全体、日本人、多摩プロバスクラブ会員などの遺伝子プール）を持っており、遺伝子プールが大きければ大きいほど、多様であれば多様であるほど、その生物は環境変化に対して適応力があります。その点、多彩な経歴を有する会員が所属する多摩プロバスクラブは、持続的発展の可能性がきわめて高いといえます。

さあ、“Plain Living, High Thinking！”（「暮らしは低くとも、思いは高く!」ワーズワース）を胸に、生涯現役で、多彩なプロバスライフを楽しもうではありませんか。

理　念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 奉仕の機会として知りあいを広める
3. 活力ある高齢社会を創造する
4. 非政治的、非宗教的、非利益的とする

■本号は、本年3月発行の第25号以降のクラブ゛の活動をまとめたもので、下記の定例会と定期総会の内容を含みます。なお、7月発行の「東京多摩プロバスニュース創立5周年特集号」にも6月までの活動を掲載しています。

◆	第57回定例会	平成21年3月4日(水)13時30分	関戸公民館第3学習室	出席者30名(会員数33名)
◆	第58回定例会	平成21年4月1日(水)13時30分	パルテノン多摩学習室	出席者26名(会員数33名)
◆	第59回定例会	平成21年5月13日(水)13時30分	パルテノン多摩学習室	出席者32名(会員数35名)
◆	第60回定例会	平成21年6月3日(水)13時30分	関戸公民館第2学習室	出席者26名(会員数36名)
◆	第6期定期総会	平成21年7月1日(水)13時30分	パルテノン多摩学習室	出席者36名(会員数36名)
◆	第61回定例会	平成21年7月1日(水)14時30分	同　上	出席者33名(会員数36名)
◆	第62回定例会	平成21年8月5日(水)13時30分	関戸公民館第2学習室	出席者29名(会員数36名)

◇◇◇　第６期定期総会　◇◇◇

第６期定期総会（平成21年度）が７月１日（水）午後１時30分～3時、パルテノン多摩学習室で開催された。議事録に則り、以下要約して報告する。

岡野一馬会長の開会挨拶後、上田清幹事の司会で議長に古澤靖雄会員、書記に楠慶二会員を選出。議事録署名人に岡野会長、上田幹事が選任された。

次いで、古澤議長が会則11条3項により総会成立を確認し（議決権所有会員36名、出席30名、委任状6名）、議長の議事進行により熱心な討議がなされ、第１号議案から６号議案まですべて承認された。

第１号議案　平成19年度活動報告・・・・上田清幹事

１、第５期　「東京多摩プロバスクラブ」総括報告

「美しい多摩を次の世代へ」をスローガンとして、環境問題に関する自由討論や学習会などを行うとともに、残したい多摩の風景をテーマとした公募美術展を開催するなど、環境への理解と啓発に努めた。

また美術展や裁判員制度等のクラブ創立５周年記念事業の実施をはじめ、会員相互の交流や親睦活動の充実を図るなど、20年度の基本方針・活動計画に沿った諸活動を展開した。

2. 各委員会報告

(1) 総務委員会・・・・・・・・・・・蓮池守一委員長

①会員数

本年度は40名を目標としたが、関根正敏氏、楠慶二氏、西村政晃氏、三木宗治氏、山田喜一氏、松永弘氏、永田宗義氏の７名が入会し会員数36名となった。

②定例会

12回開催した。理事会、各委員会報告やサークル活動報告、卓話および外部者による講話（3名）、自由討論などを行った。

③「東京多摩プロバスクラブ創立５周年記念事業計画」各委員会が分担し無事終了した。

④ 定例会にテーマに基づく外部講師を招聘し講演会を実施した。

⑤ 会員名簿の作成は来年度に引き継ぐ。

(2) 研修･親睦委員会・・・・・・・鈴木達夫委員長

会員の自己研鑽と相互理解を深めるため相互理解のさらなる前進を目標に活動した。

（見学会、新年会、納涼会、一泊研修旅行等８回実施）

(3) 地域奉仕委員会・・・・・・・増山敏夫委員長

今年度は５周年記念事業と併せて活動を行った。

①裁判員制度セミナーや刑事裁判の傍聴など計19回400名参加。

②創立５周年記念の公募美術展「次の世代に残したい多摩の風景展」をパルテノン多摩市民ギャラリーで開催した（絵画48点、写真27点の応募。入場者数延1,400人）。また来場者の投票（総数640余票）により「新多摩八景」も選ばれた。

③プロバス寺子屋活動

ア.「国際理解授業」１月27日　南豊ヶ丘小学校
出張講師（西村政晃会員）「ネパールの話」

イ.「そろばん教室」出張講座（古沢靖雄会員）
多摩第2、瓜生、南豊ヶ丘、東寺方小学校。

左から幹事報告をする上田幹事・村上会長エレクト・岡野会長・楠書記・古澤議長

(4)広報委員会・・・・・・・・・・・・登坂征一郎委員長

会報「東京多摩プロバスニュース」の発行（第21号～25号）、ホームページの更新（3回）を中心に活動した。また、創立５周年記念事業の一環として、「創立５周年記念特集号編集委員会」を編成し、特集号の編集・発行、および「5年のあゆみ」の冊子・画像資料を作成した。また“地域ふれあいフォーラム TAMA”に参加し当クラブ紹介の画像資料を作成し紹介した。

3. 創立５周年記念事業報告・・・・・・・・実行委員会

(1) 記念式典・記念祝賀会の開催（総務委員会、研修・親睦委員会）

創立５周年を祝う記念式典・記念講演・祝賀会を関係者の参加〔式典・講演98人、祝賀会86人のもと、５月23日（土）新都市センターホールで盛大に開催した。

(2) 裁判員制度の啓発事業（地域奉仕委員会と同じ）

(3) 美術展の開催（地域奉仕委員会と同じ）

(4) ニュース特集号の発行（広報委員会と同じ）

第２号議案　平成20年度会計決算書・財産目録
・・・・・大澤亘会計理事、上田清幹事

第３号議案　平成20年度監査報告
・・・・・平田哲郎監査

◇◇◇第 6 期定期総会(続き)◇◇◇

第 4 号議案　平成 21 年度　理事選出

会長	村上　伸茲
副会長（会長エレクト）	鴻池　敬和
幹事	登坂征一郎
会計	堀内　陽二
総務委員会委員長	中村　昭夫
研修・親睦委員会委員長	増山　敏夫
地域奉仕委員会委員長	神谷　真一
広報委員会委員長	滝川　益男
監査（業務監査・会計監査）	岡野　一馬

第 5 号議案　平成 21 年度活動計画

・・・・・　村上伸茲会長

＜スローガン＞

「豊かな経験を生かし、多彩なプロバスライフを！」

1．基本目標と活動方針

(1) 基本目標

「東京多摩プロバスクラブ」および地域社会の持続的発展のため、あらゆる人々と互いに協働し、手を携えて、多彩な高齢社会モデルを構築することを目指す。環境問題、健康維持、ならびに社会に対する問題意識に強い関心を持ち、自己啓発と精神性向上に努める。

(2) 活動方針

①　環境

・食生活とエコ（地産地消、ふるさと多摩名産品）

②　健康

・充実した健康生活　・生涯現役

③　多彩なプロバスライフ

・豊かな経験（OPEN PROBUS,　自分史）

・自己啓発と高齢社会モデル（卓話、市民講座）

④ 地域社会

・持続可能な発展

・地域に感謝（地域貢献）

2. 各委員会の活動計画

(1) 総務委員会・・・・・・・・・・・中村昭夫委員長

{委員・・中村・西村・池田・熊本・鈴木・三木・山田（正）・吉岡}

運営に関する庶務的、総合調整的事項を実施し、あわせて組織の潤滑油的な役割を果たし、会員および各委員会の相互連携を図るため活動計画を推進する。

①定例会の充実

②卓話および座談会の充実

③他団体との連携の模索

④組織拡充の推進

(2) 研修・親睦委員会・・・・・・・増山敏夫委員長

{委員・・増山・関根・大熊・岡野・片山・小西・永井・永島・長嶋・松永}

会員の自己研鑽と相互理解を深めることを目的に活動する。引続き地元・地域の理解を深めるとともに、5 周年記念美術展で募った「次の世代に残す多摩の風景」をテーマに「ウォーキング」を企画する。

(3) 地域奉仕委員会・・・・・・・・神谷真一委員長

{委員・・神谷・蓮池（守）・上田・滝川（道）・蓮池（光）・阪東・古澤・堀内・山田（喜）}

「豊かな経験を生かし、多彩なプロバスライフを！」のスローガンのもと会員の有している知識や特技を生かす活動を、次代を背負う子どもたち、保護者、高齢者に対し「東京多摩ロータリークラブ」や他団体と連携し計画、実施していく。

(4) 広報委員会・・・・・・・・・・滝川益男委員長

{委員・・滝川・大澤・楠・神谷・平田・永田}

「東京多摩プロバスクラブ」の理念に基づき、会報の発行を企画・運営するとともに、ホームページの編集・管理をはじめ、広報宣伝の諸活動にあたる。

これにより、会員相互の認識を深め、かつ活動の活性化を図り、また、対外的な認知度を高める。

①「東京多摩プロバスニュース」の編集、発行、配布

②ホームページの編集と管理

③地域メディアの活用と協働

④全日本プロバス協議会との連携

第 6 号議案 平成 21 年度会計予算（案）

・・・・・ 堀内陽二会計理事

総会後、懇親会会場での記念撮影

◇◇◇　幹事･委員会報告　◇◇◇

１．幹事報告　　登坂征一郎幹事

（１）新任挨拶訪問の件；
村上伸茲会長・鴻池敬和副会長、登坂征一郎幹事は新任挨拶のため下記の通り表敬訪問。
①7 月 28 日(火)；東京多摩ロータリークラブ
②7 月 30 日(木)；多摩市教育委員長
③8 月 10 日(月)；多摩市長

（２）全日本プロバス協議会理事との交流会の件；
全日本プロバス協議会理事と東日本地区プロバスクラブとの交流を目的に交流会の開催案内あり。
①ウエルカムパーティ;11 月 15 日(日) 18:00～20:00
②第 2 回全日本プロバス協議会理事会；
11 月 16 日(月) 10:00～12:00(傍聴歓迎)
③全日本プロバス協議会理事との交流会；
11 月 16 日(月) 12:30～15:00
以上開催場所は、京王プラザホテル八王子。

２．委員会報告

２・１総務委員会　　中村昭夫委員長

（１）定例会の運営は、卓話、講話、座談会を重点として、できる限り会員が気楽に意見を言える場とするように、また定例会に参加することが楽しみになるような工夫を取り入れるように心がける。
・卓話：未発表者および発表希望者による。
・講話：市長、有識者、団体代表などに加え、多摩の歴史を知る、国際事情を知る、などのテーマでそれぞれの分野の識者の講演を依頼する。
・座談会：テーマを決めて全員参加による座談会。テーマはあまり硬くならず気楽な話題を取り上げる。

（２）会員手帳の作成
会員名簿と会員プロフィールを合体した写真入の会員手帳を作成する。

（３）プロバスクラブ案内パンフレットの作成
ＰＲ資料として一般向けに当クラブの案内パンフレットを作成する。

（４）プロバスバッジ（襟章）の調達
手持ち在庫がなくなったため 15 個を追加調達した。

（５）他団体との連携の模索
会員各位の意見を聴取して連携したい候補団体を選び、その活動状況の収集、交流の機会をつくり協同活動の推進を検討する。

２・２研修親睦委員会　　増山敏夫委員長

7 月 1 日総会後、パルテノン多摩「トレーノ・ノッテ」にて、前年度の慰労と新年度のスタートを祝う会員親睦会が行われ、盛会（参加 26 名）でした。また 9 月のスケジュールとしては､16 日（水）に長池ネイチャーセンター（長池公園自然館）見学会を行います。同館専門員による説明を聞き、里山観察と公園内散策を楽しむ予定です。

２・３地域奉仕委員会　　神谷真一委員長

（１）裁判員制度セミナー開催
日時；7 月 5 日（日）14:00～16:00
関戸・一ノ宮コミュニティセンターとの協働事業で裁判員制度セミナーを開催しました。
内容は最高裁判所製作の DVD「審理」の上映と東京地方裁判所立川支部の小澤一政刑事次席書記官による解説でした。参加者 25 名。（下の写真は当日の研修風景）

（２）アンケート調査
前回の例会で会員の特技のアンケートを集めました。まだ追加提出を受けつけます。8 月 15 日まで神谷宛にご一報を。

２・４広報委員会　　滝川益男委員長

当面は会報「プロバスニュース」の紙面の充実に力を注いでまいりたい。
（１）各会員の持つ豊かな経験・見識を会報に載せ、多彩な紙面づくりをする。各委員会の活動報告はもちろん、各サークルの楽しい活動、各会員の「一言発言」や個人的な活動の話などの積極的な投稿を歓迎する。
（２）「世界のプロバス事情」を継続掲載するほか、やがては全日本プロバス協議会との連携により日本各地のプロバス事情なども追々載せていきたい。

◇◇◇　サークル活動　◇◇◇

１．俳句の会　　池田玄海世話人

定例会で議案審議報告だけではなく、何か楽しいサークル活動でも始めませんか、と蓮池さんとの雑談から、蓮池さんのお世話で“からまつ俳句会”の由利雪二・石川春兎両先生をお迎えして、俳句勉強会を発足してから早や２ヶ年を経過いたしました。発足当時は唯五七五の字数を揃えるだけの私達も、雪二先生のご熱心なご指導により、今では他流試合に投稿出来る迄に成長しました。

最近、プロバス俳句会では味気ないので、私達に相応しい会名をとの提案により、会員の無記名投票多数決で、新会名を“谺句会”と決定いたしました。

今後はからまつ俳句会ほか他の俳句会との交流行事には“谺句会”で参加しますので、よろしくご声援をお願いいたします。

２・１釣りサークル　　上田清会員

しばらく開店休業の状態でしたが、天然ウナギのカバ焼きを食べたいという慾に駆られて、7 月 15,16 日、伊豆方面へウナギ・キス・カサゴ釣りに行ってきました。

ウナギは小田原と伊東港で、キスは茅ヶ崎と網代港で、カサゴは富戸港から釣り船でと欲張った釣行でしたが、釣果の方はウナギ０匹・キス１匹・カサゴ 13 匹等と不漁で、第１次産業の厳しさ？・・・を痛感させられたところです。

しかし、その副産物として数匹の手長エビやモクズガニに久しく対面できたこと、また何よりも半世紀余もタイムスリップして童心に帰れたことが釣果以上の成果であったと感謝しています。

会員一同、まだまだ再挑戦へのエネルギーは残っておりますので、今度は相模川・早戸川・道志川近辺で、また楽しい夢をみることができればと思っております。

２･2　童心に帰り、天然鰻の夢を追う　蓮池守一会員

幼き頃のふる里の野山や河川での四季折々の遊び体験談が高じ、小魚や鰻捕りの道具作りに発展したのが物好き 6 人衆。

竹を編み多摩流の“胴”（どう）と鰻針を使った“流し針”を仕上げると、先ず伊豆高原研修の折に富戸港に試し仕掛け。残念ながら捕獲ゼロ。次は多摩川へ蚯蚓と練り餌を入れた仕掛けを夕刻に置き、翌朝 5 時半に回収。目指した鰻は見えず、手長蝦とうぐいが計６匹。飽くなき仲間は次のカサゴ釣りに合わせて小田原と伊東の河口に仕掛けるが、やはり手長蝦と蟹が十数匹で鰻ゼロ。

目指した鰻は見えず（多摩川関戸橋下流にて）

次は仕掛けの時期や場所の工夫と、鰻を求めて童心の火は燃え続けている。乞うご期待！

※因みに手長蝦の唐揚げは江戸の名物料理とか…。

追記:釣りサークルの西村会員が、最大 66cm の大鰻を含む天然鰻６匹を釣り上げた(**写真**)。6 月 14 日夕方、岩手県宮古市重茂(おもえ)の海に流れ込む小川に仕掛けを入れ、翌 15 日の朝回収したもの。流し針 14 本を使用。エサは大みみずとのこと。

３．美術サークル　　岡野一馬会員

多摩市周辺の自然の風物を対象に描いています。道具はスケッチブック（Ｆ3 前後自由）と水彩絵具の手軽なもので、見たまま感じたままを自由に、個性豊かに表現し、楽しんでいます。

原則として、毎月第一日曜日 10 時～15 時頃まで。後は飲みながらの合評会で盛り上がっています。現在までの対象地は、小野路、一本杉公園、根川緑道、小山田緑地など。参加者は、鴻池・山田・上田・増山・関根・登坂の諸兄です。

小山田緑地トンボ池上（岡野会員画）

４．ゴルフサークル　　鈴木達夫会員

久しぶりのゴルフ；4 月 24 日（金）天候は薄曇りであったが、絶好のゴルフ日和の大月市花咲カントリー倶楽部でプレーをする。ここは丘陵コース。自然に恵まれたゴルフ場で樹木は小さいが、6,200YARD と比較的易しい平坦なコースです。池田会員からカップの寄贈があり、新ペリア方式で競技を行い、成績は鈴木、増山さん、登坂さんの順位でした（平田さんは体調不良のためハーフで終了）。皆さんと和やかな雰囲気の中、気持ちよくプレーができました。

成績はネット　鈴木 78（ﾄｰﾀﾙ 90､hc12）、増山 79（ﾄｰﾀﾙ 97､hc18）、登坂 80､6（ﾄｰﾀﾙ 101、hc20.4）。参加者：平田哲郎、増山敏夫、登坂征一郎、鈴木達夫の各会員。

左から鈴木、増山、平田、登坂の各会員

◇◇◇　一泊研修旅行（伊豆）　◇◇◇

第１日目　　**楠慶二会員**

6 月 10 日（水）～11 日（木）、永井岩男会員のお世話で伊豆高原にある保養施設「ソレイユ伊豆」にマイクロバスで向かう。参加者 20 名。女性は 2 名で少しさびしい。釣りサークルの皆さんが 40～50 cm位の竹筒みたいなものをそれぞれ持参している。鰻を捕るのだという（海にウナギがいるのでしたっけ？）。

小田原漁港で昼食。途中、一碧湖を小散策し、夕刻には「ソレイユ伊豆」に到着。ちょうど雨が落ちてくる。釣りサークルのメンバーは、雨の中、仕掛けを持って海に向かう。その熱意に敬服。「ソレイユ伊豆」は、温泉も料理も素晴らしく、夜の懇親会は大変盛り上がりました。

「ソレイユ伊豆」の玄関前で

第２日　　**滝川道子会員**

快適な「ソレイユ伊豆」を後にして国道 135 号を一路、アサヒビール足柄工場へ。途中、富戸の港に仕掛けたウナギ漁の成果は！最大の関心事に胸躍らせる釣りサークルの面々と野次馬の我々も現地へ、馬券ならぬ漁券に全員がのめりこみー。意外や意外成果はゼロ。あらあら～。

その後あわただしく昼食を終え、バスでビール工場へ。“予約の時間に間に合わないかも”との鈴木達夫研修・親睦委員長のはやる思いを乗せ、無事定刻に足柄工場に到着。ビールが出来るまでの工程を見学し、出来立ての 3 種類のビールに舌鼓（さすがに美味しい）。ほろ酔いの中無事、最終地、聖蹟桜ヶ丘に着きました。

皆様お疲れ様でした。

富戸の磯にて、釣りサークルのメンバー

富戸の磯にて　　**神谷真一会員**

今年の一泊研修旅行先が伊豆と決まり、「その近辺の川に仕掛けることが出来たら良いなあー」と飲み会での話。今年の 3 月蓮池守一会員の指導で作った鰻胴（竹製）を活用、旅行先で仕掛けることになりました。

バス旅の車中、後部のサロン席で、延縄仕掛けの枝針を結び始めました。「富戸」の磯を仕掛ける場所に決め、鰻胴を海底に、延縄にこぶし大の石を結び一方の端を持ち、海中に向け先ず一投（登坂さん）。ところが重さに耐え切れず、縄を握った蓮池さんの手をすり抜けて仕掛けは海中に。縄のみ海中にプカリと浮かんでおり、あれやこれやと言っている間、バツの悪さからか責任感からか蓮池さんが近くの竹藪から棒を持ち帰り、仕掛けの手繰り寄せに成功。その先に赤色の小さな魚が釣れていました。

３月、鰻胴を製作

思い出に残る旅となりました。

◇◇◇　誕生祝に夫婦箸贈呈　◇◇◇

当クラブ第 6 期からの新イベントとして、毎月、誕生日を迎える各会員の長寿を祝い例会で「誕生祝」をして、記念に「夫婦箸」が進呈されることになった。

第一回は 8 月例会で同月誕生の坂東熙子、長島洋三、上田清各会員と、ひと月遅れで 7 月誕生の西村政晃、滝川道子両会員の計 5 会員に鴻池敬和副会長から手渡され、「ハッピーバースデー」の合唱で賑やかに祝福された。

この箸には、村上伸茲新会長の専門分野にちなみ、環境シンボルとして「蛍」の一字が書かれている。増山敏夫会員の手配により、長野県奈良井宿の漆器工房で製作されたもの。

7 月・8 月に誕生日を迎えたメンバー

◇◇◇　卓　話　◇◇◇

食と農を考える　　三木宗治会員

漠然として大それたテーマではありますが、小さな農園で細やかな体験を通じて垣間見る農業の課題を述べさせていただきます。

1. 農産物への関心

趣味と実益を兼ねた家庭菜園は最近盛んだが、先頃までは　”作り方”の本など見当らず、種苗はたね屋なる専門店でなければ手に入らなかった。私自身は農業高校に勤めていたので関心を持って有機肥料と最低限の農薬で安心野菜にとり組んでみたものの、とても農家が作るようにはならず、最盛期には店先に立派な野菜が捨て値のような安さで並んでいた。作物毎の”暦の時”、気候や病虫害への対応もままならず、確実に品種改良や技術の進歩により、各地から年間にわたって送られる多彩な食品の恩恵を受けていた。ただ気になるのは過当な競争による供給過剰。農産物は可食部分は僅かであり、さらに古くなって廃棄されるものも多く、これが大地に帰ることはあるのだろうか。わが家の農園も専ら略奪農業で地力は落ちていく。化学肥料による汚染も聞いていた。

流通機構の発達により季節を問わず、海外に食品を求め輸入できる豊かな国になってはいるが、主要先進国がその自給率を高める努力をしている中、日本のみ低下し続けているとは(穀物重量で27%, カロリーで39%, ー最近2年で41%の報)。平地が少なく規模拡大の困難、米作保護の特殊性はあっても、大きな課題なのだろう。

2. 身近かな農業

外国産食品への依存度が高まる中、環境汚染や残留農薬、産地偽装などトラブルも増え、食の安全に対する関心も高まって、値が高くても国産をという期待が出てきた。東京の農業も見直され、地元の産物は地元でと、「地産地消」なる語が生まれたりしている。都市周辺にまだ農地も残っており、農家数も多摩市は約30戸だが、他市は300～500戸。露地野菜といわれる小松菜、ほうれん草、トマト等を生産している。市場への出荷以外、農協、スーパー、共同販売所への直販方式等多様なルートを作りだし、消費者に近く　”顔の見える販売”に変ってきた。

今多くの農家の悩みは高齢化による後継者不足と聞く。きつい仕事と生産性の低さに若者が街に出てしまうとか。最近の経済不況で様子が変ったといっても、山村の耕作放棄、都市生活との格差は誠に残念なこと。食糧と共に緑地保全の機能も失われようとしている。

周囲の農地が次々に駐車場や立派な住宅に変っていくのは一寸さびしいことである。私の農園は借地なのに、何人もの業者が売らないかと声をかけてくる。開発の波が近くまで迫り、ヨーロッパの都市のように、森や里山を残すのは容易なことではないと思う。

後継者育成も大問題。全国に多種の教育機関はあるが、現在100年の歴史を持つ都立の農業高校は6校(内1校は今春農場を持つ総合学科高校に変更)、島にも3校。農家以外の子女もともに農業を通して動・植物、食品、自然、環境を学んでいる。地味ではあるが特色ある専門教育は面白い。

東京都はこの他多くの制度を設け、若者からシニアまで広く人材を育てようとしている。かってないほど農業への雇用創出の期待は高まり、日夜新聞テレビで農業が話題に上る。公園や屋上に野菜が植えられたり、建設業者や機械メーカーの農業参入も報じられる。機械化や構造改善が進み、法人化による規模拡大、施設園芸が工場のように稼動しているという。様変わりの農業がこれからどのように進化発展し、自給率に寄与していくか、不安とともに期待し、また賢い消費者として協力していきたい。

3. これからも農業

やはり農業と土地との繋がり、自然との深い係り、それ故の不安定さ、労働のきびしさは変らない。こうした中で農業への関心が単なるブームでなく、循環型社会の中、人々が共生の理念をもって生き、農業と食糧を大切に守り、協力し、良い環境が保たれることを願うものであります。

☛村上会長のホタル放流に関する意見が新聞に

6月20日付朝日新聞朝刊・「私の視点」欄に「遺伝子汚染の危険、周知を」というタイトルで掲載されました。後日「天声人語」にも引用され、環境問題の一つとして考えさせられるものでした。

論旨は、環境教育や自然環境保全の目的で各地で盛んに行われているホタルの放流活動が、ホタルの遺伝子汚染を引き起こす可能性があり、もしそうなれば免疫力の低下や環境への対応力が落ち、ホタルを増やすつもりが結局、いなくなってしまうことにもなりかねない。同じ種の交雑による遺伝子汚染については、はっきりしたことがまだわかっていない。だから影響がはっきりするまでは予防的な手を打つべきで、研究を重ねる一方で、まずは安易な放流は止めねばならない、というものでありました。

（文責　増山敏夫会員）

私の視点

遺伝子汚染の危険、周知を

村上　伸弦　全国ホタル研究会会員、工学博士

ホタル前線が、四国・九州から北上を始めている。夜空によぎるホタル舞は、これからの季節の風物詩。とりわけ、客の待望である。一時は姿を消したホタルが各地で「復活」している。国産蛍を中心に、自然環境を生かっての自然の営みの成果。蛍の数が増えるのは、喜ばしいかぎりである。

ただ、ホタルは、蛍光物質を発光させるルシフェラーゼなどの酵素が、種ごとに異なっている。中国産蛍を放流すれば、遺伝子汚染が起こる。これが蛍の免疫力の低下や環境への対応力を落とすのではないか、という懸念がある。外来種の行動パターンの変化、ということもあるかもしれない。

私は国内約300の蛍・蛍場を調査したことがある。

◇◇◇　新入会員紹介　◇◇◇

山田喜一会員

調布市役所生活文化部長を定年退職し、調布市文化コミュニティ振興財団常務理事、調布市国際交流協会常務理事を歴任。多摩市においては保護司、民生委員として社会福祉活動に従事され、現在多摩市民生委員協議会会長、多摩・稲城・日野地区保護司会理事を務めている。また前多摩市国際交流センター理事長を歴任された。

これらの活動に加えて陸上競技でも活躍され、多摩市陸上競技協会設立にも関与し、同協会副会長、体育協会理事としてスポーツの振興に努めた。ライフワークのランニングではフルマラソンで活躍され、国内のみならず海外のマラソン大会にも出場して数々の入賞を果たしている。全国年代別ランキングでは昨年3位、今年4位になった。走った距離は地球3周、12万キロになる。その他、山歩き、神社・仏閣参り、美術鑑賞なども趣味として楽しんでいる。

（中村昭夫会員記）

松永弘会員

1936年富山県生まれの73歳。2000年の定年まで外務省勤務。在外勤務はパスキタン（イスラマバード）2回約12年半、フイジー（スバ）約2年半、ベトナム（ハノイ及びホーチミン）約7年、計約22年間。退職後は特定非営利活動法人（NGO）「国境なき子どもたち」の支援活動の監事として活躍され、海外活動で多忙の日々を過ごしている。多摩市国際交流センターの理事として子どもたちのお世話もされている。

趣味のアマチュア無線は17歳から。現在地元住民協議会アマチュア無線クラブ監事。国内外のマラソン大会に参加され健康増進に努めている。八王子鹿島に在住。平成21年5月13日入会。　（鈴木達夫会員記）

永田宗義会員

1940年5月長野県松本市生まれ。‘64年4月NEC日本電気（株）に入社、各種の電子プリンタの開発技術に従事され、‘89年7月プリンタ事業部長に就任、約1000億円の事業経営の責任者となり、4年後の‘93年7月NEC100%出資の新潟日本電気(株)に役員として出向し、経営全般、製造、総務などを担当、‘02年6月まで勤務して62歳で退職された。

退職後は健康維持維増進や地域を知るため、ウォーキングなどを通して移りゆく四季折々の彩りを写真に撮るとともに、多摩の都市計画などを調べて‘04年4月多摩市公募の都市計画審議委員に応募、2期4年都市計画審議委員を務められた。また‘06年から毎年コーヒーショップ“白樺”にて3週間写真展を開催している。今年は4回目を10月27日～11月15日に開催予定！（注:新潟日本電気(株)は約900名、950億円のNECへの出荷売上、各種プリンタとノートパソコンの開発製造会社）。　（滝川益男会員記）

◇◇◇東京多摩プロバスソング◇◇◇

作詞　　池田　寛
作曲　　中村　昭夫

聖の桜仰ぎつつ　多摩の流れに身を清めて
緑の杜に囲まれた　我が故郷の行く末と
社会奉仕に力をそそぐ
集う我等プロバスクラブ
プロバス　プロバス　多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ　心の業を磨き合い
豊かな知識身につけて　次の世代の若人の
教え導く糧となる
集う我等プロバスクラブ
プロバス　プロバス　多摩プロバスクラブ

◇◇◇　編集後記　◇◇◇

「創立5周年特集号」発刊のため約半年休刊しましたが、今26号をもって隔月刊へ戻ることになりました。これまで登坂征一郎会員がほぼ一切の編集作業を背負ってきましたが7月の総会で新たな体制となり、滝川益男、大澤亘、平田哲朗、神谷真一、稲田興、楠慶二、永田宗義の各会員が今後1年間、編集委員として編集・配布を担当します。

今号は村上伸茲新会長のご挨拶のほか、新たに始まった「お誕生祝い」の記事など掲載しましたが、紙面のさらなる充実へ向けていろいろなご発言や寄稿、ご意見などをお待ちしています。　☆2009年9月　編集委員会一同